

第5編

重点プロジェクト

- 5.1 重点プロジェクト設定の視点
- 5.2 瀬戸内市エコツーリズムプロジェクト
- 5.3 エネルギーの地産地消プロジェクト

5.1 重点プロジェクト設定の視点

重点プロジェクトは、市が目指すべき環境の将来像実現に向け、重点的に取り組むものとして、以下の3つの視点を考慮した取り組みとします。

視点1 複数の環境分野にまたがっていること

「第2編 瀬戸内市の現状 2.5 市の環境課題と環境政策の方向性」では、各環境分野の現状と課題を網羅的に整理しました。これらの環境課題は、それぞれが深刻な課題であるのみならず、相互に関連性を持っており、効果的な環境の保全に向けて、複数の環境分野に効果を発揮する取り組みが必要です。

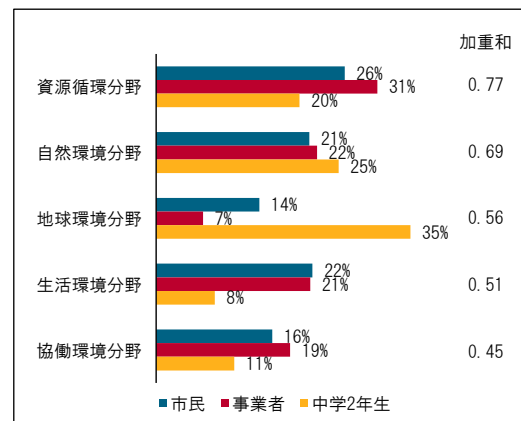
このことから、重点プロジェクトは複数の環境分野にまたがる取り組みであることを視点の1つとします。

視点2 市民などの関心の高い環境分野であること

市は本計画の改定にあたり、市民・事業者・中学2年生が抱く環境意識の把握を目的にアンケート調査を実施し、設問の一つとして「今後、市が重視すべき環境分野」を設定しました。この設問の回答結果として、「資源循環分野」と「自然環境分野」については市民・事業者・中学2年生それぞれの回答割合が高く、「地球環境分野」については中学2年生の回答割合が高い結果となりました。

本計画は市民・事業者・市がそれぞれの役割のもと推進する計画であることから、市民などの関心の高い環境分野を重点プロジェクト設定における視点の1つとします。

▼「今後、市が重視すべき環境分野」に関するアンケート結果



視点3 地域資源を活用した取り組みであること

市内には、「温暖な気候」、「海と山が近くにある自然環境」、「日本最大規模のメガソーラー事業」、「豊富な農水産業」、「魅力ある観光・歴史・文化資源」などの多種多様な地域資源が存在しており、市はこれらの地域資源を活用したまちづくりを推進しています。

このことから、地域資源の活用を重点プロジェクト設定における視点の1つとします。

アンケート調査結果から、市民・事業者・中学2年生が抱く「今後、市が重視すべき環境分野」として「資源循環分野」、「自然環境分野」、「地球環境分野」の3つが把握されましたが、その中でも「地球環境分野」は、市の次世代を担う中学2年生の回答割合が突出する結果となりました。また、市は太陽光発電事業を軸としたまちづくりの取り組みとして「太陽のまちプロジェクト※」を推進しています。

これらのことを踏まえ、本計画では、3つの視点を踏まえつつ、「地球環境分野」で最も重要となる温暖化対策を主眼とした次の2つを重点プロジェクトとして設定しました。

瀬戸内市エコツーリズムプロジェクト

エネルギーの地産地消プロジェクト

重点プロジェクトと各視点の対応は以下に示すとおりです。

▼各視点と重点プロジェクトの対応

視点	項目	瀬戸内市 エコツーリズム プロジェクト	エネルギーの 地産地消 プロジェクト	
視点1 複数の環境分野 にまたがっていること (市の環境課題)	地球 環境 分野	二酸化炭素削減	◎	
		再生可能エネルギーの利活用	◎	
		公共交通網の拡大	△	
	資源 循環 分野	ごみ減量	△	
		リサイクルの推進	○	△
		不法投棄の防止		
	生活 環境 分野	大気環境の保全		
		水環境の保全		
	自然 環境 分野	生態系の保全	○	
		有害鳥獣被害防止		
		人と自然のふれあいの場の維持・創出	○	
	協働 環境 分野	環境意識の醸成 <small>じょうせい</small>	◎	◎
環境保全活動の活性化				
視点2 市民などの関心の高い環境分野 であること	資源循環分野	○	△	
	自然環境分野	○		
	地球環境分野	◎	◎	
視点3 v 地域資源を活用した取り組み であること	温暖な気候	◎	◎	
	海と山が近くにある自然環境	◎		
	日本最大規模のメガソーラー事業	◎	◎	
	豊富な農水産業	○		
	魅力ある観光・歴史・文化資源	◎		

備考) ◎：関連の強い項目、○：関連のある項目、△：やや関連のある項目

※ 市は、平成25年3月に策定した「錦海塩田跡地活用基本計画」に沿って、太陽光発電事業を軸とした、安全・安心のための対象事業、環境保全事業、まちづくり事業を進めており、市の魅力や認知度の向上を図るため、この取り組みを「太陽のまちプロジェクト」として掲げ推進している。

5.2 瀬戸内市エコツーリズムプロジェクト

◆ プロジェクトの目的

市の地域資源を活用した市民などの環境意識の高まりと観光の活性化を目的とします。

◆ プロジェクトの概要

○本市には、日本のエーゲ海と謳われる美しい景色と古き町並みが残る牛窓地域などの様々な地域資源が存在します。

○それらの地域資源の中でも、市の南東部の錦海塩田跡地には、日本最大規模の「メガソーラー施設」や県内有数の野鳥生息地となる「錦海ハビタット」、また、その周辺には一般廃棄物焼却施設「クリーンセンターかもめ」が整備されています。

○メガソーラー施設では地球にやさしい再生可能エネルギーについて、錦海ハビタットでは野鳥観察を通じた自然とのふれあい、クリーンセンターかもめではごみ問題についてそれぞれ学習・体験でき、錦海塩田跡地は地球環境・自然環境・資源循環について一緒に学べる場所となっています。

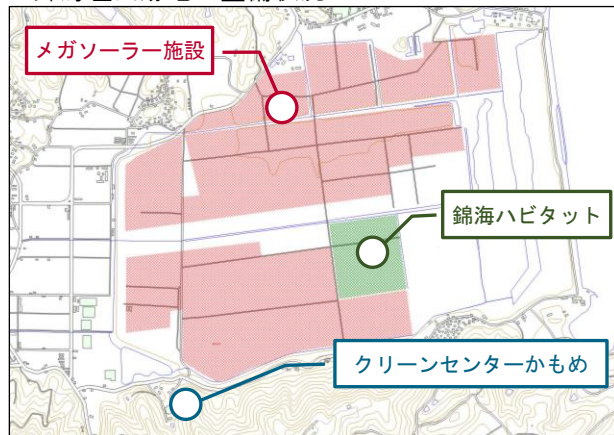
○このような場所は市内でも少なく、錦海塩田跡地を市の環境を象徴するランドマークとし、小学生や市民の環境学習の場として創出するとともに、市内の観光コンテンツの一つとして観光の活性化を図っていきます。

○プロジェクトの実施にあたっては、市・観光協会・公共交通事業者・教育関係者などによる連携のもと、「市内のエコツアー※ルート」や「観光 PR の方法」、「環境学習の場としての利用方法」などについて検討していきます。

▼環境に関連する市内の地域資源

分類	施設名称
自然環境	大平山野鳥の森、長船美しい森、牛窓オリーブ園、黒井山グリーンパーク、錦海塩田跡地
景観資源	福岡の町並み、しおまち唐琴通り、前島展望台
伝統文化	備前おさふね刀剣の里、夢二郷土美術館、寒風陶芸会館、海遊文化館

▼錦海塩田跡地の整備状況



▼エコツアールートの例



※ 自然を観察したり体験しながらその仕組みを学んだり、昔の貴重な遺跡を知り、それを大切に守ったりする、自然にやさしい旅行。

5.3 エネルギーの地産地消プロジェクト

◆ プロジェクトの目的

市内で発電した電気を市内で使用するまちづくりを目的とします。

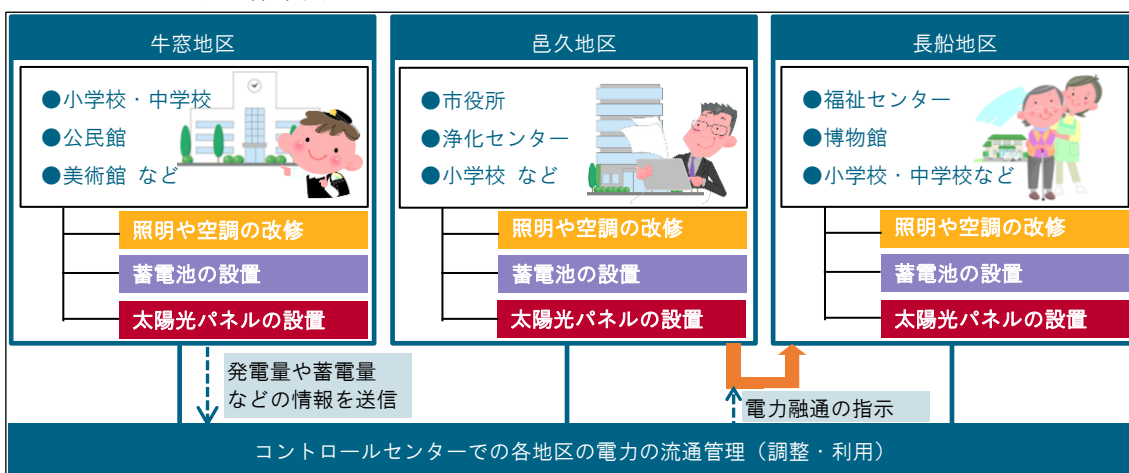
◆ プロジェクトの概要

○市内で発電した電気を使用する仕組みづくりとして、牛窓・邑久・長船地区の各公共施設への発電・蓄電設備の整備とともに、各設備をつなぐネットワークを構築し、各施設の発電量や蓄電量、施設使用電力量などを一括管理するコントロールセンターを整備します。

○発電量が不安定になりがちな太陽光発電に対し、蓄電池を活用することで安定した電力源の確保とともに、コントロールセンターを通じ、余剰電力を蓄えている施設から電力が不足している施設への電力融通を図ることが可能となります。

別の表現で言いかえると、各公共施設はエネルギー供給源と消費施設をつなぐエネルギーのネットワーク（マイクログリッド）の一部として、既存の発電所からの電力にほとんど依存することなく、安定的な電力供給システムの運用を図ることが可能となります。

▼マイクログリッド体系図



○公共施設間での電力利用を進めつつ、太陽光発電設備や蓄電池の導入支援により、一般住宅や民間建物などでの太陽光発電利用を促進し、それらの建物をエネルギーネットワークに加えることで、市内で発電した電気を市内で利用するまちづくりの構築に取り組みます。また、太陽光以外の再生可能エネルギー源の利用検討も行います。

▼エネルギーのネットワーク拡大について

